様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：３２６７７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０３５８１

研究課題名（和文）古典派経済学におけるハリエット・マーティノゥの影響とその現代的意義に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Harriet Martineau's Influence on Classical Economics and Its Contemporary Significance

研究代表者
舩木　恵子（Funaki, Keiko）

武蔵大学・総合研究所・研究員

研究者番号：００４０９３６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究において次のような点を明らかにした。(1)マーティノゥは古典派経済学の大衆化に成功した『経済学例解』以前のRioters(1827)の時点でリカードゥ経済学原理の3版での機械説同様の議論をすでに提供しており、マーティノゥの経済学における貢献は古典派経済学の普及だけにとどまらず、独自の労働観に基づくものがある。(2)また先行研究で旅行文学に位置づけられている作品に産業論としての内容がある。(3)女性労働について、「同一労働同一賃金」の概念や女性の再生産活動に対する価値評価などに現代経済学への議論的要素が見られる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ヴィクトリア時代は産業化に伴い人々の暮らしや経済が大きく変化した時代である。特に女性の就業による社会的変化は、「女性問題」を生じさせたが、広く普及してきた古典派経済学にとってこの問題は対応の困難なものであり、発言権や立場が弱い女性たちの声は文筆家や教育者を通して主張された。本研究は市場化の中で、女性の経済的自立が経済発展をもたらす要素となることを早くから主張してきたハリエット・マーティノゥに注目し、その経済思想の全体像を分析することにより現代の女性労働論への展望を模索した。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the following points. (1) Martineau had already provided a discussion similar to Ricardo's machine theory (On Machinery:Chapter 31,3rd edition) at the time of Rioters (1827) before the Illustrations of Political Economy, which succeeded in popularizing classical economics. Contributions in economics are based not only on the spread of classical economics, but also on a unique view of labor. (2) Also, in this research, I found that the works read as travel literature in the previous research on Martineau had contents as industrial theory. (3) In Martineau's discussion on female labor, there are controversial elements of contemporary economics in the concept of "equal pay for equal work" and the value evaluation of women's reproduction activities.

研究分野：経済思想史

キーワード：経済思想　女性労働　フェミニズム　古典派経済学　プロト・フェミニスト

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)ハリエット・マーティノゥ(Harriet Martineau)研究は、現在英米を中心に学際的に研究がおこなわれている。しかしその中心は *Illustrations of Political Economy*(1832-34)の分析がほとんどであり、特にマーク・ブローグが *Ricardian Economics, A Historical Study* において「文学として読まれた経済学」として、はじめて経済学説史に位置づけて以来、経済学においてはこのシリーズの古典派経済学との関係分析、またその大衆への普及や効果を中心に研究が進められている。2014 年 4 月にマーティノゥ・ソサエティの会長で経済学分野からの研究を進めるジョン・ヴィント氏が来日し「ハリエット・マーティノゥと古典派経済学」を各地の大学で講演したが、こうしたことで最近では日本の経済学分野でもマーティノゥへの認識は高まっている。

(2)マーティノゥが依拠する経済学は、彼女が論じるその時代の経済問題によって徐々に変化する。マーティノゥは 1850 年代以降、イギリスで統計学が普及するようになると、統計データを根拠に分析をおこない政策提言をするようになる。特に女性労働の分析では、古典派経済学では扱わない女性の再生産活動を、資本蓄積論的な歴史分析と産業経済分析によってマーティノゥ独自の論述で展開する。現在のところ、こうした円熟期のマーティノゥの経済思想研究は皆無である。わずかに社会学、特にジェンダー論関連でゲイビー・ウェイナー(Gaby Weiner)や、我が国ではヴィクトリア時代の文学と産業化に関連して、ギャスケル(Elizabeth Gaskell)との文学的相違と共通性を松本(松本三枝子)が主張するのみである。

(3)研究代表者はこれまで一貫して古典派経済学における女性労働の位置づけを分析してきた。産業化が進む 19 世紀の女性労働を古典派経済学はどのように扱うのかを「J.S.ミルの賃金基金説とフェミニズム」(『マルサス・ミル・マーシャル－人間と富の経済思想』2013)で論じ、その際に経済学(理論)と経済問題(現実)に架橋と展望を示したマーティノゥの経済思想の重要性と斬新さを再考し、本研究において明らかにしようと考えた。

２．研究の目的

一般的にマーティノゥについては「社会改良家」という形容詞を付与することが多い。しかし彼女は慈善家でも政治家でもなく、同時代人のインドに渡って女子教育に没頭したメアリー・カーペンターのような活動家でもない。聴覚障碍者であり、病弱で中年以降はほとんど湖水地方を出ることがなかった。『経済学例解』が成功して著名になる 1830 年代から 40 年代以前に J.S.ミルやハリエット・テイラーとユニテリアンの急進的組織で交流があったため、J.S.ミルとティラー夫人関係の論考には、しばしば周辺人物として登場する。しかし概して社会改良家として評価される J.S.ミルに比較して、ミル関係の記述に示される人物像に社会改良家的なものはない。マーティノゥはヴィクトリア時代という既婚女性が一般的な時代に、独身で、あらゆる組織にも属さず、再晩年は政府からの年金給付の親切な申し入れも「信念を持って」断りつづけ、隠性的な立場で社会を客観的に分析、論考した(*Life in the Sick-Room*:1844)。

マーティノゥの『経済学例解』は経済学の大衆化を目的としているが、古典派経済学、特にジェームズ・ミル(James Mill)の経済学を解説するのが目的だった。経済学自体には社会改良の要素が多くあり、その意味でマーティノゥに社会改良家という呼称は確かに当てはまる。しかし 19 世紀は経済学が多様化し、経済社会と同様に経済学も発展した。そのためマーティノゥの経済思想を古典派経済学の領域だけに留めて分析するのでは、その全体像を示すことはできないと考

えた。現実を想起させるフィクションによって古典派経済学を解説したマーティノゥは、2年間のアメリカ視察旅行を経て、その経済思想も変化したと考えるのは自然ではないかと考え、本研究では先行研究がマーティノゥの政治経済分野での変化を「経済学から社会学(ジャーナリズム)へ」という枠組みでとらえる通常の研究視点の立場をとらず、19 世紀以降の経済学の多様化とその領域の広がりを考慮した上で、マーティノゥの経済思想の全体像を広く経済学の歴史の中で位置づけすることを目的とする。

３．研究の方法

(1)マーティノゥの労働観の全体像を理解するために、『経済学例解』以前から晩年の著作まで巾広く対象を広げ、労働争議や女性労働に関する著作に絞って精査、分析し、マーティノゥの労働観から経済思想をとらえることを目指した。『自伝』の記述には交友関係も書かれているので、時代ごとの書簡分析もおこない、特に以下の著作に注目し、重点的な研究をおこない、また加えて研究に外部的な客観性を加味するために(2)(3)の活動に尽力する。

①*Rioters: or A Tale of Bad Times* (1827)

『経済学例解』以前の初期マーティノゥは、生活の糧を得るため、ホールストン社と契約して8ペニー小説と言われる大衆小説を匿名で書いている。中でも初期マーティノゥのこの作品には彼女の経済思想のルーツがあり、『経済学例解』が古典派経済学の「テキストありき」でストーリーが描かれるのに対して、この著作は当時の一時的恐慌による失業や労働者の生活苦、技術革新による労働問題などの経済、社会問題が現実を想定しつつ述べられていることに注目し、詳細に内容分析をすべきであると考えた。ほぼ同時代のリカードの『経済学および課税の原理』の「機械論」においても、当時機械化(技術革新)は労働者の失業をもたらすか否かという議論を生じさせていたが、マーティノゥはこの時リカードの経済学を知らずに登場人物に同様のことを論じさせている。このことに注目した研究は皆無だが、マーティノゥはマーセット夫人から『経済学例解』のヒントを得たと『自伝』でのべているが、実は自分の論点をマーセット夫人の著書によって思い出したといえるのではないかという分析が可能になると考えこの著作を重視する。

②*letters From Ireland*(1852)

マーティノゥのアイルランド論。当時としては珍しく現地取材をおこない、27 通の書簡によって報告され、Daily News 誌のコラムに載せ、その後著書として出版したもの。内容はジャガイモ飢饉後のアイルランド産業論であり、そのなかの女性労働論は *Female Industry* に影響を与えている。旅行文学として分析されてきた著作に女性労働論のきざしがある。

③*Female Industry*(1859)

19 世紀型フェミニズム論の典型であり、ランガム・プレイス・グループに影響を与えている。イングランド史から女性の再生産活動を分析し、元来女性間においての階級差はなく女性は皆奴隷に等しく、社会的、慣習的な服従によって、女性のしごと(Industry)は資本蓄積に貢献してきたと主張する。これは J.S.ミル『女性の解放』より早い記述である。また女性のしごとが再生産活動の場から絶えず市場化されるという概念を示しており、その市場化による貨幣価値相当分が再生産活動に与えられなければ地域コミュニティが崩壊するはずだと現代にも通じる分析を行なう。同一の女性労働と男性労働との賃金差を分析し、「同一労働同一賃金」の概念を示しており、20 世紀初頭にエコノミック・ジャーナル誌上でミリセント・フォーセット、エレノ

ア・ラスボーンなどが繰り広げる「同一労働同一賃金論」の先駆になっている。

(2)近代勤労思想研究会

マーティノゥの場合、勤労は Industry であり、「しごと」であるが、様々な立場から勤労を考えるという研究会を武蔵大学で開催し、ジャンルや立場にこだわらず自由に議論することにした。社会人の参加も募った。

(3)マーティノゥ・ソサエティ

毎年 7 月にイギリスで開催されるマーティノゥ・ソサエティ・コンファランスに参加、報告し議論やアドバイスを受け、研究成果を共有した。2019 年 7 月マンチェスターでおこなわれたマーティノゥ・ソサエティ・コンファランスでは *Letters from Ireland(1852)*を報告し、従来の旅行文学的な視点ではなく、アイルランド産業と女性労働論の視点を強調した。

４．研究成果

研究の方法(1)については、一部発表していた *Rioters: or A Tale of Bad Times* (1827)を完訳し「暴徒・不景気な時代の物語・下」として武蔵大学総合研究所紀要 25 号に投稿した。またそれに関連して 2016 年 4 月に共著『経済学の座標軸』(社会評論社)に「ハリエット・マーティノゥの経済思想」(9 章)を発表し、5 月に経済学史学会　第 80 回全国大会(東北大学)で「ハリエット・マーティノゥの経済思想」を報告した。さらに同年 8 月には Routledge 出版の *Harriet Martineau and the Birth of Disciplines-Nineteenth-century intellectual powerhouse-*で John Vint 教授との共同論文 Harriet Martineau and classical political economy を発表した。

2018 年 3 月に『マルサス学会年報』第 27 号に「1850 年代イギリスの女性人口の移動とハリエット・マーティノゥの経済学」を発表し、マーティノゥの依拠する経済学が 1850 年代以降に古典派経済学ではなく、センサスなどのデータや統計を利用した独自のものに変化していることを主張した。これは 2017 年 6 月のマルサス学会第 27 回大会で報告し、議論したものを修正し論文にしたものである。

2018 年 8 月に(1)の総まとめといえる論文「ハリエット・マーティノゥの経済思想―労働者の自立と社会のモラル」を『武蔵大学論集』第 66 巻第 1 号に発表した。さらに期間を延長して発展的な分析をすすめた結果、本研究課題テーマのマーティノゥの「現代的意義」という点において、マーティノゥは第一波フェミニズム運動を支えた知識人女性に知的影響を与えたプロト・フェミニストとしての位置づけが可能であると判断した。こうしたハリエット・マーティノゥの女性労働に対する労働観と経済学的主張が現代のフェミニスト経済学の論旨とも重複しうるという研究代表者の主張は 2019 年 9 月に「ヴィクトリア時代の経済発展とフェミニズム」(武蔵大学総合研究所紀要 No.28)において発表した。これは 2018 年 10 月 1 日開催の御茶ノ水女子大学ジェンダー研究所「ブリテンにおける『リベラル・フェミニズム』再考」の報告を修正しまとめたものである。その他日本イギリス理想主義学会 2017 年度研究大会等の学会、経済思想研究会、ミル研究会等でも同様の報告をした。研究代表者によるハリエット・マーティノゥ研究はヴィクトリア時代の女性研究にとどまることなく、本研究課題の研究成果は現代の女性労働思想および経済学史研究にも貢献しうるものとなっている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>舩木惠子 | ４．巻<br>No.28 |
| ２．論文標題<br>「ヴィクトリア時代の経済発展とフェミニズム」 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>『武蔵大学総合研究所紀要』 | ６．最初と最後の頁<br>51-70 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>keiko FUNAKI | ４．巻<br>27 |
| ２．論文標題<br>Harriet Martinet's political economy | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>武蔵大学総合研究所紀要 | ６．最初と最後の頁<br>89～102 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>舩木　惠子 | ４．巻<br>14 |
| ２．論文標題<br>ハリエット・マーティノゥと社会のモラル | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>イギリス理想主義研究年報 | ６．最初と最後の頁<br>29～36 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>舩木　惠子 | ４．巻<br>66巻1号 |
| ２．論文標題<br>ハリエット・マーティノゥの経済思想―労働者の自立と社会のモラル | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>武蔵大学論集 第66巻　第1号 | ６．最初と最後の頁<br>53～69 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>舩木惠子 | 4．巻<br>27 |
| 2．論文標題<br>「1850年代イギリスの女性人口の移動とハリエット・マーティノウの経済学」 | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>「マルサス学会年報」 | 6．最初と最後の頁<br>61-90 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>舩木惠子 | 4．巻<br>No.25 |
| 2．論文標題<br>翻訳：ハリエット・マーティノゥの経済思想(2)暴徒・不景気な時代の物語(下) | 5．発行年<br>2016年 |
| 3．雑誌名<br>『武蔵大学総合研究所紀要』 | 6．最初と最後の頁<br>1-23 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　1件／うち国際学会　2件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>Keiko FUNAKI |
| 2．発表標題<br>The demographic shift of Britain in 1851 and Harriet Martineau's political economy |
| 3．学会等名<br>The Martineau Society　Conference（国際学会） |
| 4．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>舩木　惠子 |
| 2．発表標題<br>ヴィクトリア時代の経済発展とフェミニズムの理論化 |
| 3．学会等名<br>お茶の水女子大学ジェンダー研究所セミナー（招待講演） |
| 4．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>舩木惠子 |
| ２．発表標題<br>「1850年代イギリスの人口変動とハリエット・マーティノゥの経済学」 |
| ３．学会等名<br>マルサス学会第27回大会 |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>舩木惠子 |
| ２．発表標題<br>Harriet Martineau's feminist economics in "Female Industry" |
| ３．学会等名<br>マーティノゥ・ソサエティ・コンファランス2017（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>舩木惠子 |
| ２．発表標題<br>19世紀の知的推進者・ハリエット・マーティノゥと学問分野の起源 |
| ３．学会等名<br>日本イギリス理想主義学会2017年度研究大会 |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>舩木惠子 |
| ２．発表標題<br>ハリエット・マーティノゥの経済思想 |
| ３．学会等名<br>経済学史学会 |
| ４．発表年<br>2016年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Keiko Funaki |
| ２．発表標題<br>First step on Harriet Martineau’s illustration: From Rioters. |
| ３．学会等名<br>The Martineau Society Conference |
| ４．発表年<br>2016年 |

〔図書〕　計2件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Keiko Funaki, ,Valerie Sanders, Gaby Weiner,Lesa Scholl,Ruth Watts,John Vint, Michael R.Hill, Susan Hoecher Rrysdale, Alexis Easley, Sharon Corner, Beth Torgerson, Iain Crawford,John Warren, Deborah, A.Logan. | ４．発行年<br>2016年 |
| ２．出版社<br>Routledge | ５．総ページ数<br>256(49-68) |
| ３．書名<br>Harriet Martineau and the Birth of Disciplines-Nineteenth-century intellectual powerhouse | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>舩木惠子、 奥山忠信、亀崎澄夫、安田均、金井辰郎、堀川哲、佐々木憲介、水田健、柳沢哲哉、阿部秀二郎、佐藤公俊、本吉祥子、栗田康之、岡本哲史、星野富一、石橋貞男、芳賀健一、ブライアン・マクリーン. | ４．発行年<br>2016年 |
| ２．出版社<br>社会評論社 | ５．総ページ数<br>355(154-174) |
| ３．書名<br>『経済学の座標軸』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|